月刊 しばうら

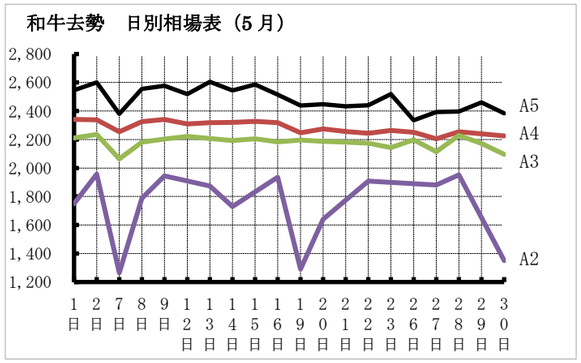
2025年 6月号

牛肉営業部

＜5月の相場動向＞

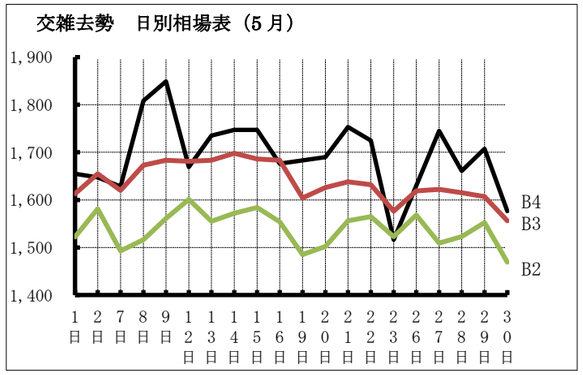
例年、ゴールデンウィーク後は税金の支払いなどで消費者の節約傾向が強まるが、今年は食品価格の継続的な値上げが影響し、消費意欲が低迷した。さらに、トランプ関税の影響でアメリカ向けの牛肉輸出が5月に入り縮小し、和牛5等級の価格は前月を下回った。一方で和牛肉販売促進等支援緊急対策事業の活用が進み、各等級ともに前年を上回る結果となった。

交雑牛は量販店や飲食チェーン店で低価格商材の需要が中心となる中、米国産輸入牛肉の価格高止まりと供給不安定が影響し、代替としての需要が堅調に推移。前年比で交雑2･3等級が大幅に上昇し、前月比では2･3等級がもちあい、4等級は弱含みの相場展開となった。



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,502円	+11円	100.4%	-31円	98.8%
A4	2,284円	+143円	106.7%	+2円	100.1%
A3	2,185円	+211円	110.7%	+19円	100.9%
A2	1,744円	+68円	104.1%	-174円	90.9%



交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,706円	+2円	100.1%	-49円	97.2%
B3	1,637円	+47円	103.0%	+12円	100.7%
B2	1,538円	+96円	106.7%	+23円	101.5%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	1,200円	－	－	－	－
B2	1,201円	－	－	+9円	100.8%

＜6月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、4月の輸入量は前年同月比16.0%減の5万3,125ｔで、うちチルドは18.3%減の1万4,860ｔ、フローズンも15.1%減の3万8,265tとなり、ともに前年同月比を下回ったが、前月実績は上回った。

農畜産業振興機構によると5月の牛肉輸入数量は、前年同月比9.9%減の4万3,700t（チルド16.2%減・冷凍6.3%減）。6月は7.1%減の4万4,200t（チルド10.8%減・冷凍4.8%減）と予測している。

輸入品はチルドが現地価格の高止まりから輸入量の大幅な減少が見込まれる。一方、フローズンは国内の在庫量が比較的高水準にあることから、米国を除く主要輸入先からの輸入量が減少し、前年同期を下回ると予測している。

輸入牛肉通関量		4月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	6,992	8,813	79.3%
	米国	6,411	7,873	81.4%
	その他	1,457	1,510	96.4%
	合計	14,860	18,196	81.7%
フローズン	豪州	17,158	21,189	81.0%
	米国	13,941	14,433	96.6%
	その他	7,166	9,423	76.0%
	合計	38,265	45,045	84.9%

出典：食肉速報　　単位：t

＜6月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による6月の出荷予測頭数は、全体で前年比100.2%の8万5,300頭で、品種別で和牛は0.8%増の4万2,000頭、交雑種は2.9%増の2万300頭、乳用種は0.6%減の2万2,500頭と予測している。

また、東京食肉市場の6月と畜頭数は7,800頭(前年比4%増)を予定しています。

＜6月の牛枝肉相場見通し＞

6月も物価高騰への警戒感から節約志向が継続し、牛肉需要の大幅な回復は期待しづらい。15日の父の日に向けて高級部位の発注増を期待したいが、荷動きは鈍く見通しは不透明だ。お中元商戦の需要もある時期だが、今年は7月に参議院選挙が予定されていることから、例年ほどの活発な動きは見込めず、和牛5等級は引き続き低調な展開が予測される。また、和牛肉販売促進等支援緊急対策事業の支援を受けた4等級も5等級の下げ基調により弱含みの見通しだ。

一方、交雑牛は輸入牛肉等の代替需要を受け、6月も堅調な相場展開が予測される。乳用牛も出荷頭数が低水準で推移することから、価格は引き続き安定するとみられる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,300～2,550	B4	1,600～1,700
A4	2,200～2,350	B3	1,500～1,600
A3	2,000～2,200	B2	1,400～1,500
A2	1,800～2,000		
乳牛去勢			
B3	1,200～1,300		
B2	1,100～1,200		

豚肉営業部

4月の全国と畜頭数は、137万6,271頭(前年同月比2.3%減)と前年を下回った。また、4月の豚肉通関数量は9万3,992t（前年同月比4.9%減）と前年を下回り、前月比では42.4%の増となった。内訳はチルドが3万5,868ｔ（前月比6.4%増)、フローズンは5万8,124t（同10.7%減）となった。

2024-2025年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
4	76,183	94,087	24,239	189,925	74,520	78,221
5	66,310	81,660	24,750	193,156	65,692	78,429
6	71,679	86,155	23,227	195,529	73,101	83,782
7	65,651	84,078	22,108	200,290	66,675	79,317
8	68,773	78,666	21,580	201,197	69,219	77,759
9	7,9625	86,742	21,384	201,922	79,699	86,017
10	78,361	78,216	21,389	194,797	78,249	85,341
11	80,661	76,518	22,458	185,736	79,425	85,579
12	79,908	80,505	23,536	190,508	78,746	75,733
1	72,607	71,911	24,121	192,819	71,884	69,600
2	76,052	65,956	24,424	192,115	75,606	66,660
3	77,457	93,904	24,518	197,256	77,266	88,763
4	98%	95%	108%	113%	97%	98%
比	76,183	94,087	24,239	189,925	74,520	78,221

出典：農畜産業振興機構　比：最終月の前年同期比　　単位：t

4月　豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	11,378	90.9%	デンマーク	3,901	69.3%
カナダ	20,513	118.5%	スペイン	16,705	95.0%
メキシコ	3,976	102.3%	メキシコ	6,113	71.8%
			アメリカ	6,563	62.4%
			カナダ	5,367	81.7%
合計	35,868	106.4%		58,124	89.3%

単位：t

＜5月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	68,900	610	570	1,024
2日	60,700	596	578	1,080
3日	—	596	572	816
8日	69,300	605	568	1,057
9日	66,600	625	589	1,011
12日	64,400	623	593	937
13日	65,100	656	620	932
平均	65,833/日			980/日

ゴールデンウィーク明けは出費の反動と物価上昇による消費者の消費意欲の低下から、単価の安いスソ物中心に引き合いが強まり、また、中部位の引き合いが落ち着いたことで相場は弱含みの展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
14日	64,500	663	627	781
15日	65,300	647	617	878
16日	62,800	649	630	993
19日	64,700	649	622	804
20日	65,100	657	638	883
21日	59,300	682	638	689
平均	63,617/日			838/日

関東では夏日を記録し、昨年同様、気温の上昇に伴い相場も上昇傾向となった。上物は600円台半ばから後半にかけて推移した。全国のと畜頭数は21日時点で5万頭台となり、減少傾向を示した。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22日	63,800	664	631	843
23日	60,300	678	644	949
26日	60,900	705	659	743
27日	63,500	725	696	822
28日	59,100	746	701	725
29日	62,100	717	690	793
30日	59,200	743	709	967
平均	61,271/日			835/日

昨年同様、全国的に気温が上がるにつれて枝肉相場は上昇傾向となり、26日には上物相場が700円を上回り、高値の展開となった。

＜6月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による令和7年6月の肉豚出荷予測では129万9,000頭（前年比109%）と予測している。当市場の6月集荷予定せり頭数は1万6,500頭、1日あたりでは約785頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると6月分の豚肉輸入見込数量は、総量で8万7,500t（同107.2%）、内訳は冷蔵輸入量が3万3,000t（同109.2%）、冷凍輸入量は5万4,500t（同106%）と予測。

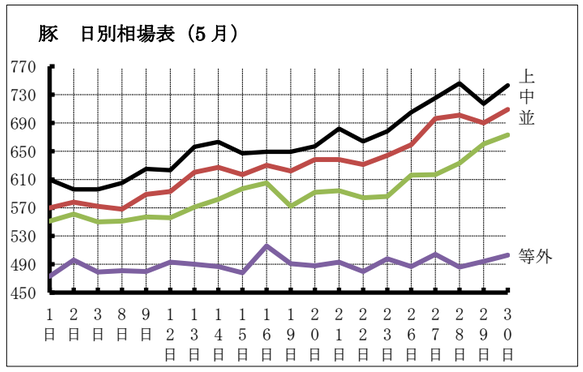
冷蔵品輸入量は、主要輸入先のうち主にカナダ産の増加が見込まれること等から、前年同月をかなりの程度上回ると予測する。同じく3カ月平均でも前年同期をかなりの程度上回ると予測する。

冷凍品輸入量は価格競争力のあるブラジル産の増加に加え、現地相場の軟化を背景にスペイン産も増加が予想されるため、前年同月をかなりの程度上回ると予測する。なお、3カ月平均では前年同期をやや下回ると予測する。

6月は特筆すべきイベントがなく、豚肉需要は低価格志向が続くと考えられる。末端では引き続きスソ物が売れ筋の中心となりそうだ。

供給面では、農水省の肉豚出荷予測によると前年同月比9%増となるが、前年6月の出荷頭数が疾病の影響で少なかった反動によるもので、実際の出荷数は過去5年平均を下回る水準となる。今後は豚熱（CSF）やその他の疾病、昨年の猛暑による繁殖率低下の影響で、出荷頭数は減少傾向が続くと予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は750円前後、中物平均価格720前後の展開と予測する。



東京都港区港南2－7－19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL http://www.tmmc.co.jp/